

さいたま市長年頭記者会見

平成31年1月7日（月曜日）

午前11時00分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長年頭記者会見を始めさせていただきます。  
それでは、記者クラブ幹事社の埼玉新聞さん、進行をよろしくお願いたします。

○ 埼玉新聞 1月の幹事社を務めます埼玉新聞と申します。明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。

それでは、早速ですが、市長から年頭ご挨拶をお願いいたします。

### 市長年頭あいさつ

○ 市 長 皆様、明けましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。旧年中は、市政各般にわたりまして、ご理解、またご協力をいただき、誠にありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

本市は昨年、政令指定都市に移行して15年の節目を迎え、総人口が130万人を突破しました。直近の市民意識調査では、さいたま市を住みやすいと感じる方の割合が84.2%、また住み続けたいと答える方の割合は86.1%に上り、民間の「住みたい街ランキング関東版」でも大宮、浦和が同時にトップテン入りを果たすことができました。旧市の時代から今日に至るまで市政発展の礎を築いていただいた幾多の先人の皆様、そして今この時代のさいたま市に集い、それぞれのお立場でまちづくりにご尽力をいただいております市民の皆様、企業や大学、各種団体の皆様に対しまして心から感謝を申し上げたいと思います。

昨年を振り返りますと、3月に浦和駅西口の中ノ島地下通路、通称「浦和サッカーストリート」が開通しました。地域の皆様や市議会の長年にわたるご尽力、そしてJR東日本や浦和レッドダイヤモンズのご理解、ご協力が実を結びまして、駅と西口のバスターミナルをつなぐバリアフリーロードが開通しました。

4月には、子ども、家庭、地域の子育て機能を総合的に支援する中核施設として子ども家庭総合センター「あいぱれっと」をオープンしました。

6月に開幕をしたFIFAワールドカップロシア大会では、本市出身の西野監督がチームを率い、非常に短い準備期間ながらもチームの結束を高め、見事グループステージを突破するという素晴らしい戦いぶりを見せてくれました。

7月には、東日本の玄関口である大宮におきまして、駅周辺のまちづくりと駅機能の高度化を進めていく上での指針となります大宮駅グランドセントラルステーション化構想を策定しました。

9月には、冒頭申し上げましたように、さいたま市の総人口がついに130万人を突破しました。政令指定都市に移行して15周年の年に大変うれしい出来事が重なりました。

去年は、大阪府北部を震源とする地震や西日本を襲った豪雨、北海道胆振東部地震など、各地で自然災害が相次ぎました。本市では、10月にさいたま新都心に防災パーゴラやマンホールトイレなど、さまざまな防災機能を備えた約1ヘクタールのさいたま新都心公園がオープンしました。

また、11月には大会アンバサダーにアルベルト・コンタドール選手にご就任いただき、6回目となりますツール・ド・フランスさいたまクリテリウムを開催しました。

全国高校サッカー選手権埼玉大会の決勝では、さいたま市立浦和南高等学校が勝利し、17年ぶり12回目の全国大会出場を決め、古豪復活ののろしを上げてくれました。大みそかに行われました全国大会初戦では残念ながら敗れてしまいましたが、南高イレブンの健闘に心から拍手を送りたいと思います。

12月には、第4回さいたま国際マラソンが開催されました。今回はフルマラソンに女子ビギナーの部を設けまして、前日のファンランやエリートランナーも合わせると約2万1,000人の皆さんに参加をいただきました。

また、フルマラソン当日は埼玉スタジアムで浦和レッズの12大会ぶり7度目となる天皇杯優勝がありました。私もさいたま国際マラソンの後、埼玉スタジアムに駆けつけて応援をしましたが、浦和レッズがワールドカップイヤーを見事な優勝で締めくくってくれました。

迎えた新年、本市では3月に（仮称）東日本連携支援センターを開設し

ます。平成27年の第1回東日本連携・創生フォーラムの開催から4年を経て、少しずつ東日本各都市との連携の成果が形になってきています。今後も各都市とウィン・ウインの関係構築をさらに深め、東日本の中枢都市を具体化してまいりたいと考えております。

4月には、県内初の中等教育学校となります大宮国際中等教育学校を開校します。難関を突破し、第1期生としてこの学校に集う生徒の皆さんには、前身となる大宮西高校のよき伝統を受け継ぎながら、世界に飛躍するグローバル人材になることを目指して切磋琢磨をしていただきたいと思っております。

5月には、大宮駅東口の連鎖型まちづくりの一環で整備を進めてまいりました大宮区役所の新庁舎が大宮図書館との複合施設としてオープンする予定でございます。建設の節目では、地域の方々の発案で地固めのイベントや鉄骨のほりに手形を残すイベントなどが行われました。地域の方々の思いのこもった新庁舎が末永く愛され活用されることを願っております。

ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムは、2013年以来、昨年まで6度の開催を重ねてきました。今年の大会からは、一般社団法人として新たに発足したさいたまスポーツコミッションが中心となって開催すべく現在調整を進めております。本市を代表するスポーツイベントであり、自転車のまちづくりのシンボルでもあるさいたまクリテリウムが市民や全国のファンの皆様にさらに親しまれるイベントとして一層定着し、末永く愛されていくために、引き続き努力を積み重ねてまいりたいと思っております。

今年は、日本で初開催となるラグビーワールドカップの年であり、また来年2020年には本市がサッカー、バスケットボールの競技会場となりますオリンピック・パラリンピックイヤーでもあります。

この2020年、本市はさいたま国際芸術祭2020を開催し、岩槻人形博物館をオープンします。さいたま市立病院の新病院も、この年に開院いたします。

また、2020年は市民満足度90%以上を目指すCS90運動の目標達成の年限でもあります。さらに、その翌年、2021年は本市が誕生して20周年の節目であり、さいたま市が次の総合振興計画をスタートさせる年でもあります。

ご案内のとおり、昨年私たちは明治150年という大きな峠を越え、今年には平成から新しい時代への幕開けという歴史の節目を迎えようとしています。平成の半ばに誕生したさいたま市にとって、今年幕を開ける新しい時代の最初の数年間は、市の内外で世界的なスポーツイベントが続き、誕生20周年や新しい総合振興計画の策定など、さいたま市の将来につながる重要な節目が控えています。

今年1年、さいたま市の新たなステージを見据えながら、しっかりと準備を進め、市政各般にわたる数々の取組をさらに充実させてまいりたいと考えています。どうか本年もさいたま市の市民一人ひとりが幸せを実感できる都市としてさらに前進し、飛躍していくために、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

結びに、新年が皆様にとって幸多き1年となりますことを心から祈念し、私の年頭の挨拶とさせていただきます。今年もどうぞよろしく願いいたします。

#### 幹事社質問：

①今年の抱負について

②今年の漢字について

③来年度予算の編成方針について

#### ○ 埼玉新聞

それでは、幹事社として代表質問をさせていただきます。質問はまとめて行いますので、よろしくお願いいたします。

まず、3点ございます。まず、1点目、今年の抱負をお聞かせいただけますでしょうか。これが1点目です。

2点目、あわせて今年の漢字を決めるとしたら、どの一文字を選びますでしょうか。理由とあわせて教えてください。

3点目、来年度予算編成が間もなく市長査定、9日に報道公開されるというふうにお伺いしていますが、新たな元号となる来年度予算の編成方針につきまして改めてお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

以上3点です。

#### ○ 市長

それでは、幹事社質問に順次お答えしていきたいと思っております。

まず、初めのご質問でございます。今年の抱負でございますが、先ほど年頭の挨拶の中で本年の市政運営として幾つかの取組を申し上げましたが、

どれ一つとっても大変重要なものばかりであると考えております。現在本市の人口は増加基調にあり、本市はまさに多くの方から選ばれ、また成長発展し続ける都市となっております。本市が持続可能な発展を続けていくため、本市の強みを徹底的に生かした施策や事業を着実に前に進めていきたいと考えています。

その中でも特にということであるとすれば、5つの重点分野があると考えております。1つは、「子育て楽しいさいたま市」への取組、2つ目としては、「日本一の教育都市」への取組、3つ目としては、「健幸」で安心安全に暮らせるまちづくりに向けた取組、そして4つ目としては、「東日本の中枢都市」に向けた取組、そして5つ目としては、「CS90運動」のさらなる推進でございます。

子育て楽しいさいたま市への取組として、市民の皆様が住みやすいと実感できるさいたま市を進めるに当たっては、福祉や子育て等の支援施策を充実していかなければならないと考えております。子育て支援につきましては、子育て楽しいさいたま市を目指し、「しあわせ倍増プラン2017」に掲げます「保育需要の受け皿の確保」や、「学校・家庭・地域が連携した食育の推進」など、安心して子どもを生み育てられるまちとなるための施策や事業に、引き続き取り組んでいきたいと考えております。

日本一の教育都市への取組につきましては、質の高い教育活動を現在も実施しておりますが、本年4月にさいたま市から世界に飛躍するグローバル人材を育てることを目的にして、市立大宮西高等学校を改編して、市立大宮国際中等教育学校を開校します。これによりまして、一人ひとりの個性や才能をより伸ばすとともに、グローバル社会の中でたくましく生き抜く人材を育成することができるものと期待しております。現在進めております小学1年生からの「グローバル・スタディ」と連携しながら、さらにそういった取組を強化していきたいと考えています。

3つ目といたしまして、「健幸」で安心安全に暮らせるまちづくりに向けた取組でございますが、健康寿命を延ばし、市民一人ひとりが健幸に暮らしていくことは、超高齢社会を迎えた本市の活性化には不可欠であると考えております。「健康マイレージ」、また「さいたま健幸ネットワーク」などの取組を通じまして、楽しみながら体を動かすこと、また生活習慣への

意識を高め、引き続き「スマートウェルネスさいたま」という運動を推進していきたいと考えています。

また、高齢者が介護を必要な状態となっても住みなれた地域で安心して生活を営むことができるように、「地域包括ケアシステム」の一層の推進を図り、健幸長寿社会の実現を目指して引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

東日本の中核都市に向けた取組についてでございますが、本市の目指す東日本の中核都市を実現していくために、大宮駅グランドセントラルステーション化構想の実現に向けた取組を進め、大宮駅周辺街区のまちづくり、また交通基盤整備及び駅機能のさらなる高度化を三位一体で推進をしてまいります。

また、本年3月28日には（仮称）東日本連携支援センターをオープンする予定です。シティプロモーション、B to B、また交流の3つの機能によりまして、東日本全体の持続的発展、また地域活性化を図っていきたいと考えております。ハード面、そしてソフト面、両面から成る東日本との連携をさらに強化をしていきたいと考えています。

また、CS90運動のさらなる推進としては、平成30年度の市民意識調査では、先ほども挨拶で申し上げましたが、「住みやすい」と思う割合が84.2%、「住み続けたい」と思う割合が86.1%となりました。今後も、本市のさまざまな強みを生かした施策、事業を進めながら、市民の皆様の「住みやすい」、また「住み続けたい」と思う割合を増やしていくとともに、これは行政だけで取り組む運動ではなく、市民の皆さん、またCSパートナーズの企業、団体の皆様とともに、市を挙げてこのCS90運動を広げていきたい、このように考えております。

続きまして、今年の漢字についてのご質問にお答えをしたいと思います。今年の漢字は「充」、これは充実、あるいは拡充の「充」という字でございます。書き初めをしてちゃんと書いてきました。「充」の意味である「みちる、みたく、足りないものにあてる」という思いを込めて、この「充」という字にさせていただきました。

先ほども申し上げましたが、本市が取り組むCS90運動は、来年に目標年を迎えることから、今年は市民満足度90%達成を目指して、必要な

こと、またさらに前に進めるべきことをしっかりと「充填」、「充足」していく年と考えております。

そうした中、今年3月に（仮称）東日本連携支援センター、また4月には大宮国際中等教育学校、5月には大宮区役所（新庁舎と大宮図書館の複合施設）など、経済、教育、行政といった各分野において、重要な施設が開設します。また、子育て支援型幼稚園の運営開始や、昨年法人化いたしましたさいたまスポーツコミッションの本格稼働を予定するなど、これまでの取組の成果がさらに「充実」し、市民満足度の向上につながる年になることを期待しております。

そして、CS90運動の「CS」のもう一つの意味であります「チャレンジさいたま」。この姿勢で、私自身強い推進力を発揮して、市民や企業の皆さんとともに、この取組の輪をさらに「拡充」をさせていきたい、このように考えております。

続きまして3番目のご質問でございます。平成31年度予算編成についてのご質問にお答えをしたいと思います。平成31年度の予算は、交通の要衝、災害に強いという2つの優位性、教育、環境、健康、スポーツ、この4つの強みを最大限に生かして、「高品質経営市役所への転換を図り、市民一人ひとりがしあわせを実感できる都市」、「誰もが住んでいることを誇りに思えるさいたま市」の実現に向けた予算編成をしまいたいと考えております。

具体的には、東日本の中枢都市及び上質な生活都市づくりのために、「さいたま市成長加速化戦略」及び「しあわせ倍増プラン2017」を、さらに人口減少問題の克服を見据えました「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、ここに盛り込まれているさまざまな施策を着実に実施していきたいと考えております。

また、明日1月8日から新年度予算の市長査定を実施する予定でございます。平成31年度の予算編成は、社会保障費の上昇に伴いまして扶助費を中心とした義務的経費が増え続けており、また都市基盤整備や老朽化した公共施設対策、また本市が成長するための施策等の財政需要の大幅な増大が見込まれております。厳しい財政状況の中で、事業の緊急度、また優先度を的確に把握し、費用対効果の検証などPDCAサイクルに基づく事

業の改善や見直しを徹底し、その上で真に必要な事業の推進と、財政の健全性の維持を両立させつつ、本市が東日本の中枢として持続可能な発展を続けていくため、本市の強みを徹底的に生かした施策や事業を着実に前に進められるように、査定をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

- 埼玉新聞 代表質問の説明に関して質問がある方は、挙手の上質問をお願いいたします。

それでは、ほかに質問がある方は挙手の上質問をお願いします。

### その他：2019年選挙イヤーについて

- 時事通信 時事通信社と申します。

2019年なのですが、元号が変わったり、あと選挙イヤーとも言われていますけど、そこについての認識についてお伺いしたいのですが。

- 市長 2019年は、埼玉県内全体でいいますと、非常に選挙が多い年と認識をしております。統一地方選挙が4月7日、市議選、県議選が行われます。

また、それが終わりますと、今度は参議院議員選挙が7月に行われる予定でありますし、また8月には埼玉県知事選挙が行われるということでもありますので、そういう意味ではそういった大きく時代が変わっていく、また、さまざまな制度改正もございます。そういう意味では2019年は非常に大きな変化が起こる可能性のある、そんな年なのではないかと思っておりますが、昨今非常に地方選挙のみならず、投票率が低いという状況がございますので、ぜひ市民の皆様には、皆様の思いや、あるいは考え方や、あるいは意思を表明する貴重な機会でありますので、ぜひ投票所に足を運んでいただいて、そしてそれぞれの選挙で皆さんの思いを、意思を伝えていただきたいと思っております。

- 読売新聞 読売新聞です。

先ほどの質問に関係するのですが、今年知事選が行われるということで、まだどなたも去就を明らかにしていらっしゃる方はいないので、これまでの上田知事の県政に対してどんなふうに思っているか、伺えればと思います。

- 市長 やはりここ十数年にわたって上田県政が続いてきているわけですが、そういう意味では上田知事のさまざまな努力、あるいは県民の皆さん、



あるいは各市町村の皆さんのさまざまな努力によって、非常に埼玉県全体としては元気な状況にあると思っております。

まだまだこれから飛躍する可能性を秘めた県でありますので、そういう意味では埼玉県全体が引き続き発展するように、私たちとしても、市だけではなくて県全体が発展するように、引き続き知事を始め各市町村長の皆さんと協力して、進めていきたいと思っております。

○ 埼玉新聞      それでは、記者からの質問を終了させていただきたいのですが、市長、漢字のフォトセッションをちょっといいですか。

ありがとうございました。以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。

○ 進 行      以上をもちまして市長年頭記者会見を終了させていただきます。

次回の開催は1月22日火曜日、13時30分からを予定しております。本日はありがとうございました。

午前11時23分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。